

一生懸命を最後まで（磐城小 学びのなかま）

- 目標 ①なかまと共に学び、確かな学力を身に付ける子
- ②目標を掲げ、最後までねばり強くがんばり続ける子
- ③人を思いやり、自分も人も共に大切に、感謝する心を持ち、親孝行する子
- ④子どもの力を信じ、ねばり強く指導・支援をし続ける先生

アンケートは4段階評価で実施（ A←90%以上 B←70%以上90%未満 C←70%未満 ）

目標	評価項目(★…指導の重点)	対応する質問項目	対象	肯定的評価(4+3) R3 R4 変化	自己評価	総合評価	分析	今後の改善方策
① なかまと共に学び、確かな学力を身に付ける子	基礎・基本の学力向上 【研究・学習】	読む力を高める指導の充実を図る。★【読解】	教	84% 93% ↑9.3%	A	A	【研究】 ○重点目標である「読解」の力を高めるために教師の意識が高まっている。各学年で児童の実態や読む力を高めるための取組について共有したことが結果に表れていると考えられる。  【学習】 ○学力テストの結果(4年～6年)から、学習指導部で、児童の苦手としている問題を精査し、分析をして授業改善を図った。また、各家庭への啓発も行った。	【研究】 ○引き続き各学年で実態を共有し目指す児童の姿を明確にする。 ○研究通いで児童の実態に応じた取組や読む力を育てるための手立てについて発信していく。 ○国語に関する掲示物を作成し、教室や校内に掲示することで児童の読書力を高めたり、学習の見直しをもちやすしたりする。  【学習】 ○引き続き、児童の苦手としている部分や、つまづきは何かとこのことを考え、授業に活用していく。 ○今年度購入した、短時間でできる問題集にも取り組み、「できた」という自信を児童につけていく。
		学習内容の定着を目指す。	教	95% 95% →0.1%	B			
		日々の教育活動で学習内容が定着できるような取組が行われている。	保	84% 84% →0.3%				
学習意欲の向上 【研究・学習】	児童が話をよく聴き、意欲的に学ぼうとする態度を育てる。	児童が互いの話を聞き合い、意欲的に学ぼうとする態度を育てた。	教	81% 93% ↑12.0%	B	B	【研究】 ○教師、児童ともに相手の意見を聞こうとすることに意欲的に取り組んでいる。しかし、聞いた意見から新たな考え方に気づいたり、学びを深めたりするなど意欲的に学習に取り組むことについては課題があると考える。  【学習】 ○昨年度の反省より、家庭学習の手引きを、学期始めに学年通いで印刷して配付し、家庭での自主的な学習を啓発した。しかし、自主的に家庭で学習する児童と、そうでない児童が二極化している傾向がみられる。家庭で自ら学習できるように内容について丁寧に説明をしたり自主学習の練習をしたりするなど、自主的に学習に取り組ませる意欲付けが必要と言える。	【研究】 ○授業公開の機会を設けたり、学年で教材研究を行ったりするなど、教員の指導力向上を図る。 ○校内研修を行い、発問や板書等の国語科の指導の在り方について研究を深める。  【学習】 ○児童が互いの意見を聞き合い、自分の考えを深められるよう考えを整理する時間やふり返りの時間を確保する。  【学習】 ○学年内で話し合い、家庭学習の内容や量について考えていく。学力テストの振り返り等から、児童の実態を把握し、必要な学習について学年で話し合っていく。 ○自主学習については、3年生の1学期(連休前後)からスタートする。その分量については4月中に学習指導部で決定し、共通理解を図る。 ○家庭学習の手引きを年度末だけでなく、学期始めの学年通いの裏面に印刷するようにする。
		先生の話を友だちの意見を聞き、授業に意欲的に参加していますか。	児	91% 94% ↗2.7%				
		意欲的に学習に取り組んでいる。	保	× 67%				
	家庭学習(宿題を含む)に取り組む児童を育てる。	児童の実態に合わせて家庭学習(宿題を含む)の内容や出し方を工夫することができた。	教	90% 86% ↘4.2%	B			
		毎日、家庭学習(宿題を含む)をしていますか。	児	95% 94% →-1.0%				
		毎日、自分から家庭学習(宿題を含む)をしている。	保	82% 72% ↓-9.9%				
思考力・判断力・表現力の育成 【特活】	互いに認め合える集団を実現する。	児童が意見を伝えられるように取り組んだ。	教	90% 95% ↑5.1%	B	B	○研究教科が国語科になったことで、学級会だけでなく、国語科や他教科での授業でも、意見を伝え合い、一人一人の意見を認め合う場面が増え、目標を概ね達成できた児童も教職員も考えられたのではないかとと思う。  ○学校行事や委員会など、異学年で活動できる場面を(コロナ禍の状況を鑑みながら)増やしていく。 ○学級会は続けていく。磐城小全体として、学年の縦の積み上げができるようにする。	
		互いに認め合う集団を育成できた。	教	86% 91% ↑5.0%				
		友だちの意見を最後まで聞き、自分の意見を伝えることができましたか。	児	86% 89% ↗3.4%				
		一人一人の意見を大切にできる学級ですか。	児	92% 92% →0.4%				
読書力の向上 【学習】	学校や家庭での読書習慣の定着を目指す。	読書の時間を確保し、児童に読書に親しませるようにしてきた。	教	81% 88% ↑7.9%	B	B	○学校図書館の活用、朝読書、給食後の読書など、読書時間の確保ができてきた。  ○各家庭で、読書に親しむように、図書便り等を通して啓発を行った。各家庭の中で、取組が広がるように今後も啓発を実施していく必要がある。  ○今後も引き続き、学校図書館の活用、朝読書、や給食後の時間や課題後の時間に読書をするように声掛けを続ける。教室に担任が児童の親しみやすい本を借り、本に親しみやすい環境にする。 ○児童の読書記録をファイル式のものにした。使いやすいうように、今後も工夫していく。	
		図書だよりや読書カードを活用できた。	教	71% 84% ↑13.0%				
		毎日、学校や家で読書をしていますか。	児	79% 80% →1.0%				
		毎日、家庭で読書をしている。	保	54% 52% ↘-2.1%				
			保					

一生懸命を最後まで（磐城小 学びのなかま）

- 目標 ①なかまと共に学び、確かな学力を身に付ける子  
 ②目標を掲げ、最後までねばり強くがんばり続ける子  
 ③人を思いやり、自分も人も共に大切に、感謝する心を持ち、親孝行する子  
 ④子どもの力を信じ、ねばり強く指導・支援をし続ける先生

アンケートは4段階評価で実施（ A←90%以上 B←70%以上90%未満 C←70%未満 ）

目標	評価項目(★…指導の重点)	対応する質問項目	対象	肯定的評価(4+3) R3 R4 変化			自己評価	総合評価	分析	今後の改善方策			
② 目標を掲げ、最後までねばり強くがんばり続ける子	運動好きな子の育成 【保体】	楽しみながら体力をつけることができる授業の工夫を行う。	児童が楽しみながら体力をつける工夫をすることができた。	教	85%	95%	↑9.9%	A	○今年度は、運動会が複数学年での実施になったり、かけ足・マラソン大会が復活したりといった変化があった。体育的行事への取組が普段の授業にも生かされたことで、教職員の意識が向上され、子どもたちの結果にも良い形で表れているのではないかと。 ○サーキット運動は、発達段階に応じて、楽しみながら様々な動きを習得できるように構成している。毎授業で徹底して実施するようにする。	○体育的行事に限定されることのないように、普段の授業からねばり強くやり通す心と身体を育むことを意識して指導する。			
			体育の時間は積極的に運動していますか。	児	95%	93%	→-1.7%	A					
			生涯スポーツの基礎となる運動に親しむ態度を養う。	教	78%	93%	↑15.0%	A					
	健康・安全・食育の意識向上 【保体・生指】	正しい姿勢や基本的な生活習慣を意識し、自分自身の健康についての関心を高める。	姿勢や生活習慣に関する指導を通して、自らの身体を守り鍛える態度を養うことができた。	教	79%	86%	↑6.9%	B			【保体】 ○教職員の結果は改善されている。昨年度から設けている『保健指導の日』が定着し、日頃の指導にも生かされるようになったからではないか。反面、子どもたちの結果は変化が見られない。その場限りの指導で終わってしまっ、常に意識できるような状態にまでは浸透していないのではないかと。 【生指】 ◇年間を通した取組として、右側歩行の取組を行うことで、子どもたちの「右側を歩く」という認識が定着してきたように思う。また、どの学年でも共通した取組を行い、学校全体で指導していくようにできたことで、大幅な上昇につながったと感じる。	【保体】 ○月1回程度の教職員による放送や、保健委員会によるポスターなどで、姿勢に関する啓発活動を進める。 ○『ほけんだより』や二測定(体重測定)の機会を利用して、季節に関する保健指導や姿勢の達成状況の確認などを行う。	
			「ピン・ビタ・グー」や「早寝早起朝ごはん」はできていますか。	児	79%	78%	→-1.1%						
		学校だけでなく地域においても安全に過ごそうとする児童を育てる。 ★【右側歩行の徹底】	どんな時でも安全に過ごそうとする児童を育成することができた。	教	77%	98%	↑21.0%	B					【生指】 ◇雨の日の過ごし方について、年度当初に各学級で、どのように過ごすかを話し合いで決めておく。 ○廊下のラインと矢印を有効活用しながら指導を継続していく。
			自分や周りの人たちがけがをしないように、「教室では静かに過ごす」「ろうかは右側を歩く」など安全に気を付けて生活していますか。	児	90%	90%	→-0.1%						
			交通ルールを守り安全に気を付けている。	保	95%	96%	→0.6%						
外遊びへの意欲向上 【保体】	体育の授業の初めに行うわきサーキットや休み時間に行うわ金ピックなどを通して、運動への意欲や体力向上を目指す。	休み時間、教室に残っている児童はほとんどいない。	教	61%	65%	↑4.1%	C	○休み時間、子どもたちと一緒に遊んでいる教師の姿が昨年度同様多いように感じる。しかし、結果の大きな改善にはつながっておらず、継続した取組が必要だと感じる。 ○コロナ禍3年目ということもあり、感染症対策もしながらの授業のノウハウがある程度固まりつつあるからこそ、教師の結果が改善されたのではないかと。	○学期に1回、運動委員会による外遊びイベントを開催し、外遊びの楽しさや様々な動きのやり方を知る機会を設ける。				
		休み時間は外へ出て遊んでいますか。	児	72%	70%	→-1.7%							
	子どもたち同士で動き方を覚え、自ら学ぶ態度を育てる。	子どもたち同士で動きを学び合う態度を育てた。	教	73%	86%	↑12.8%	B						
		授業中や遊んでいるとき、運動のやり方を友だちに教えてあげたり、教えてもらったことがありますか。	児	80%	80%	→-0.1%							

一生懸命を最後まで（磐城小 学びのなかま）

- 目標
- ①なかまと共に学び、確かな学力を身に付ける子
  - ②目標を掲げ、最後までねばり強くがんばり続ける子
  - ③人を思いやり、自分も人も共に大切に、感謝する心を持ち、親孝行する子
  - ④子どもの力を信じ、ねばり強く指導・支援をし続ける先生

アンケートは4段階評価で実施（ A←90%以上 B←70%以上90%未満 C←70%未満 ）

目標	評価項目(★…指導の重点)	対応する質問項目	対象	肯定的評価(4+3)			自己評価	総合評価	分析	今後の改善方策	
				R3	R4	変化					
③ 人を思いやり、自分も人も共に大切に、感謝する心を持ち、親孝行する子	進んで挨拶をする子の育成 [生指]	進んであいさつをし合う人間関係を大切にしたい学級づくりを目指す。	進んであいさつをし合うような人間関係を大切にしたい学級をつくりたい。	教	81%	86%	↗5.0%	B	○数値としては上昇しているが、年々、挨拶については意識が低くなっており、学校全体で見てもあいさつの声が少ないように思われる。	○挨拶をせざるの、挨拶をすることでどんな良い効果があるのかを児童の発達段階に応じて具体的に示す指導を行う。また、児童が活動の中心となるような挨拶意識向上の取組や楽しいイベントを実施する。	
		家庭や地域でもあいさつができる児童を育てる。	家の人や地域の人に元気よくあいさつをしていますか。	児	84%	85%	→1.3%	B			
		すすんであいさつをしている。	すすんであいさつをしている。	保	65%	72%	↑6.8%	B			
	掃除をきちんとする子の育成 [生指]	清掃によって美しい学校環境を保持し、身の回りを清潔に整頓することができるような習慣を育成する。	教職員自ら掃除に取り組みながら、担当場所の指導を行うことができた。	教職員自ら掃除に取り組みながら、担当場所の指導を行うことができた。	教	91%	91%	→0.0%	B	○コロナ禍の影響もあり掃除の時間や場所が制限されている中で、児童が、一生懸命掃除をしている姿が多く見られる。ただ、場所の制限や掃除の仕方の徹底ができていなかったこともあり、学校全体としては、掃除が行き届いていないところもあるので、感染対策を徹底しながら掃除の仕方を検討していく必要があると考える。	○無言清掃の徹底について、教職員と児童が、もう一度課題を共有し、次年度も進めていく。 ○無言清掃の前に1分間のクールダウンタイムをとるなど、休み時間からの切り替えができるようにしていく。
			掃除の時間、余計な話をしないで掃除をしていますか。	掃除の時間、余計な話をしないで掃除をしていますか。	児	82%	82%	→0.0%			
			学校は清潔で整っている。	学校は清潔で整っている。	保	78%	79%	→0.3%			
	きまりを守る子の育成 [生指]	年間目標を意識して守ろうとするなど、規律ある生活ができる児童を育てる。	年間目標を達成し、身の回りを清潔に保つことができた。	年間目標を達成し、身の回りを清潔に保つことができた。	教	65%	74%	↑9.3%	B	○年間目標が何なのか、教職員と児童にもはっきりわかるような掲示物を作ったことで、年間を通して指導ができた。	○さらなる向上に向けて、毎月の部会や学年会でも、各学年の状況を情報交換し、共通した指導ができるようにしていく。
			年間目標を意識して行動していますか。	年間目標を意識して行動していますか。	児	84%	85%	→1.0%			
			基本的な生活習慣の育成を図り、社会のきまりを守ろうとする態度を育てる。	基本的な生活習慣の育成を図り、社会のきまりを守ろうとする態度を育てる。	教	86%	98%	↑11.7%			
	いつもルールやきまりを守っていますか。	いつもルールやきまりを守っていますか。	児	92%	91%	→-0.5%					
	人権意識・道徳性の育成 [人教・特支]	自分も他者も大切にする集団を育てる。	児童の人権意識を高めるために、積極的に人権学習を進めた。	児童の人権意識を高めるために、積極的に人権学習を進めた。	教	79%	86%	↑7.4%	B	【人教】 ○今年度は9月に人権参観を行ったことで、より年間を見通して人権学習を計画でき、学年で話し合いながら積極的に進めることができた。 ○友達との相互理解を目指し、様々な場面で起こる問題を解決しようとしたことが、良い評価につながった。 【特支】 ◇すきごのこタイムやお花の配達取組により、昨年度に比べて学年や学年を超えて児童間がつながる場所を増やすことができた。 ◇特別支援教育に関わって各学年で取り組んだことを共有できたことで、助け合う姿や感謝を伝える姿を意識し、言葉かけができたと考えられる。	【人教】 ○概ね高い結果であるため、今後も教師の人権感覚を養いながら、継続して取り組みたい。 ○「感謝」の取組を継続すると共に、「ありがとう」と言葉で伝えるだけでなく、伝え合いとなるような雰囲気作りを意識して学級づくりを行っていく。 【特支】 ◇次年度もすきごのこでの活動を知らせよう機会をもち、お互いを理解するきっかけになる場を設ける。自分達の活動が誰かに感謝されたり喜ばれたりする活動であると実感できるように、年間を見通して合同学習を計画し、実施する。 ◇次年度も推進委員会にて各学年の取組や課題を定期的に共有しながら、各学年で振り返る機会と視点を発信していく。
			学校は、自分や友達を大切にすることを育もうとしている。	学校は、自分や友達を大切にすることを育もうとしている。	保	85%	88%	↗3.6%			
豊かな感性を育み、互いに励まし合い共に育つ人間関係をつくる。			他人を思いやり、助け合う気持ちや感謝の気持ちを育んでいる。	教	95%	98%	↗2.5%	A			
★【感謝】	家族や友達に「ありがとう」の気持ちを伝えることができていますか。	児	93%	94%	→1.1%						

一生懸命を最後まで（磐城小 学びのなかま）

- 目標 ①なかまと共に学び、確かな学力を身に付ける子  
 ②目標を掲げ、最後までねばり強くがんばり続ける子  
 ③人を思いやり、自分も人も共に大切に、感謝する心を持ち、親孝行する子  
 ④子どもの力を信じ、ねばり強く指導・支援をし続ける先生

アンケートは4段階評価で実施（ A←90%以上 B←70%以上90%未満 C←70%未満 ）

目標	評価項目(★…指導の重点)	対応する質問項目	対象	肯定的評価(4+3) R3 R4 変化			自己評価	総合評価	分析	今後の改善方策
④ 子どもの力を信じ、ねばり強く指導・支援をし続ける先生	職務意識の向上 [教務]	時間厳守など服務規律を徹底する。	時間厳守など職務に係わる義務を意識して行動することができた。	教	94%	100%	↑6.5%	A	○全職員が高い意識をもって行動できたことは喜ばしい。しかし服務を順守し、高い自覚をもち、ことは当たり前であり、100%でなければならぬ。 ○コロナ禍での児童の健康管理を含めた仕事の増加など、教職員がおかれている現在の労働環境は厳しい。しかし、児童・保護者・地域の方々から信頼を得るためには、高い自覚とプロ意識をもって行動することが求められている。	○職務を全うする自覚はもちろんであるが、知識や授業力も含めた人間力を高めるような研究・研修・様々な経験を積み重ねる必要がある。 ○自分本位の行動・指導にならないように、管理職や各主任への報告・連絡・相談を徹底する。 ○働き方改革を推し進め、教職員が十分な休養を確保でき、心身共に充実した状態で勤務できる労働環境を構築する努力が求められる。
		教員としてのプロ意識を常にもって行動する。	いかなる時も教員としての自覚をもって行動することができた。	教	98%	98%	→0.0%	A		
	組織力の強化 [教務]	学年間の共通理解を図り、連携をとる。	様々な課題について、学年間の共通理解を図り、連携を取りながら進めることができた。	教	91%	93%	↗2.1%	A	○概ね高い数字ではあるが、各学年100名以上の児童数を抱える本校では、学年間の連携・協力は不可欠である。現状の数字に満足することなく、各学年間の関係がより一層強固になるよう、様々な事象に関して共通理解の徹底を図る必要がある。 ○定期的な部会の設定の効果もあり、大きく上昇している。各分掌には、勤務体系や経験年数など立場が違う教職員が集まっている。それぞれが高い自覚を持ち、それぞれの思いや意見が有効に反映されるような各分掌となっていく必要がある。	○教職員は、学級運営業務を中心とした様々な仕事を抱えている。学年会や各会議をより効率よく有効に運営していきける工夫が必要である。また、各学年・各分掌における風通しのよい人間関係の構築が求められる。
		各学年や各分掌の取組を全職員で共有する。	各学年や各分掌の取組を全職員で共有することができた。	教	84%	91%	↑6.3%	A		
	地域との連携推進 [教務]	対人業務であることの自覚を高める。	対人業務であることの自覚をもって行動することができた。	教	94%	100%	↑6.5%	A	○教職員の自覚に対して、保護者の思いが大きく下回っている。コロナ禍の制約の中で、可能な限り家庭と連携・連絡をとってきた。しかし、3年にわたる行事の縮小や学校教育活動の変化に少ずつ不安を積み重ねている保護者も少なくないと予想される。 ○少しずつ地域の方々との教育活動への参加が増えた。今年度は、田植え・稲刈、サツマイモ掘り、シャボン玉、昔遊び、ミシンなどの学習支援をお手伝いしていた。また、毎月の車抜き等の環境整備にも協力していただいた。	○学校全体で共通理解を図りながら、後手を踏むことのないようにきめ細やかな保護者対応を続けていく必要がある。また、各々によって対応が違うなどの不備がないように、全職員が温度差なく一定の対応をできるよう一致団結する。 ○今までに本校が獲得した人脈や経験を今後も継続できるよう各担当の引継ぎを的確に行う。また、全職員が学校・地域・パートナーシップ事業に積極的に関わっていくことが必要となる。
		コミュニティ部の活動を取り入れ、保護者や地域人材と協働する。	保護者や地域の方々との協働することができた。	教	89%	98%	↑8.6%	A		
対人業務であることの自覚を高める。		学校は家庭との連携を適切に行っている。	保	85%	82%	↓-3.4%	A			
感染防止対策と学びの保障 [教務]	新型コロナウイルス感染防止対策を施し、限られた環境の中で工夫して指導する。	児童の安心安全を念頭に、感染防止対策を徹底しながら、児童生徒に必要な学習を工夫し、実施することができた。	教	96%	95%	→-0.2%	A	○概ね高い結果となっている。健康観察や衛生面への配慮など業務の負担も大きい中、全職員が3年間にわたり辛抱強く取り組んできた結果である。	○新型コロナウイルスの位置付けが「5類」へと引き下げられた後も、これまでの経験を生かした感染対策のもと、ICTも有効に活用しながら児童に必要な教育活動に取り組みたい。	